

『もりおかの短歌』春の部

一般部門 優秀賞十首

ありあけ つき ひかり  
有明の月の光に

ゆめ  
夢さめて

で みこだ いち  
ふらり出かける神子田の市に

盛岡市 赤坂 昌信

たかまつ はなめ きみ  
高松で花愛ず君に

そ くるまいすお  
より添いて車椅子押す

こみち  
うららの小路

青森県弘前市 木村 千尋

こずかた しろあと た  
不来方の城跡に立ちて

はな よ  
花に酔ふ

こと かぜふ  
ひとときなれど古都の風吹く

宮城県仙台市 木村 智佑

檀ヶ森の丘に

だんがもり おか

広ごるりんご園

ひろ えん

花ほころびて小鳥さえずる

はな ことり

盛岡市 小林 貴史

幼き日

おきな ひ

祖父と歩きし北上の

そふ ある きたかみ

川辺を今日は我が子と歩く

かわべ きょう わ こ ある

宮城県登米市 佐藤 礼佳

柔らかき言葉に飢えて

やわ ことば う

盛岡の友の声聞く

もりおか とも こえき

久方振りに

ひさかたぶ

青森県青森市 鈴木 操

盛岡の古い町家を

もりおか ふる まちや

訪ねれば

たず

格子戸の奥にお雛さま見ゆ

こうしど おく ひな み

盛岡市 西川 政勝

ふるさとの山と友に迎えられ  
やま とも むか

孫を引く手に  
まご ひ て

花吹ぶき散る  
はなふ ち

東京都東村山市 廣瀬 典子

陸と海むすびし長き塩の道  
りく うみ なが しお みち

南部牛追い  
なんぶうしお

唄に残れり  
うた のこ

盛岡市 堀米 公子

遠景の残雪の山川に映え  
えんけい ざんせつ やまかわ は

橋のたもとで  
はし

暫し佇む  
しば たたず

茨城県日立市 飛田 秀幸

ジュニア部門 優秀賞三首

該当なし

【講評】

啄木の里、盛岡で短歌を投稿してくださることに感激します。季節が冬から春に移るとき、人は何を思うでしょうか。今回も多くの力作が集まり、選歌に悩みました。盛岡の魅力にあらためて気付かされました。

令和元年 六月選

投稿数 百九首

選者 赤澤 篤司 氏